

令和6年度 長野県諏訪清陵高等学校附属中学校 学校評価表

48清陵中

学校教育目標	～時代を逞しく切り拓く創造性豊かな人間を育てていく～ ① 個性・能力の伸長 ② 自分で考え、積極的に発信できる高いコミュニケーション力 ③ 孟子「自反」の気概を備え、社会で活躍できるリーダーの育成 ④ SSHを軸に据え、論理的で科学的な思考力を育むことにより探究力を育成	今年度 重点目標	◎ 生徒が課題発見能力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践できる授業の追求 ○ 生徒おのこの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実 ○ 生徒の相談支援態勢の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止 ○ 地域に関かれた学校づくりと社会に関かれた教育課程の実現
---------------	---	---------------------	---

重点目標	取組	評価の観点	担当分掌	達成度 (5段階)	意見（本年度の取組、次年度への課題等） ○成果、◆課題、■改善策、向上策
生徒が課題発見能力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践できる授業の追求	①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表、討論するような機会を多く設ける。	①情報分析・課題発見・考察・発表・討論などの能力が求められる「総合学力調査」の平均点および通知表の「思考力・判断力・表現力」の評価の平均値を維持増加させることができたか。	進路 学習	5	○総合学力調査では、本年度の3学年は3科目の総合において、最上位層（Lv4）と上位層（Lv3）の生徒は昨年に比して約7ポイント増加。総合的に力を伸ばしている。◆8層以下の生徒も依然として見られる。こうした生徒への支援が求められる。■議論して考えを深める学びを今後も実践していく。また、教員が相互の授業を参観し合うなど、授業改善の取組をさらに進めていく。
	②総合的な学習の時間、および教科の授業全般において、生徒が自ら課題を発見し探究する機会となるような環境を整える。	②ポスター発表、論文等が質的に向上したり、学校外の機関等と結びついた探究を行うグループの数を増やしたりすることができたか。また、授業では、探究を中心に据え、生徒自ら探究する過程を経験することができたか。	SSH	4	○中間発表会等の各自が探究してきた取り組みを発表し、他者からの評価を基にさらに研究を磨き上げるプロセスにより、各自の探究を深めることができていた。学生科学賞作品展覧会や統計グラフコンクール等でも上位に入賞するなど成果も見られている。◆個々への指導について、より丁寧な支援が必要な生徒も見られる。■1学年の「地域を知る」をテーマとした取り組みも定着してきているので、さらに外部との連携を継続し取組を進めていきたい。
	③自ら考えて課題を見つけ出し改善していく学友会活動・部活動を実現させるために顧問が機会を捉えて助言や指導をする。	③学友会活動、部活動に自ら積極的に関わることができたか。また、生徒が自己肯定感や自己効力感を高めることができたか。	学友会	4	○生徒発の企画が充実した年度となった。10周年記念企画として縦割り班による「大学芋づくり」では、苗からサツマイモを育て収穫したイモを調理して食べる企画を実施した。また10周年記念式典では、生徒企画のパネルディスカッションや全校合唱を成功させた。■ビルドアップにより、生徒に時間的余裕がなくなっていることは課題である。■生徒の取組を継続して支援していきたい。
生徒おのこの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実	①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、各種の多様な体験活動や、社会人講師による授業等により、将来の夢を育み、生き方を見いだすキャリア教育を推進する。	①新しい「学びの指標」にある3つの全県共通質問それぞれについて、肯定的な回答が8割を上回ることができたか。	進路 学習	4	○3つの質問に対する肯定的な回答は次のとおりであった。①自分なりの価値観や考え方を持っている95.6%②これから先、どのように生きていきたいかを考えている75.5%③自分にはよいところがあると思う77.5% この結果から、質問①については設定した指標を超えた。◆自分なりの価値観や考え方を持っている生徒は昨年度に比べ増えているが、どのように生きていくかや、自己肯定感を持っている生徒は8割を超えていない。■学校外の他者と触れ合える機会をさらに充実させ、夢や希望をもてるよう支援していく。また生徒の自己肯定感を高めるカウンセリング的なかわりを研修し生徒への支援を継続。
	②総合テスト、学力推移調査の分析をもとに、毎日の家庭学習の質と量の充実に図る。	②各種テスト後の分析結果に基づき、面談等を通じて各生徒の弱点を補うような指導をすることで、半数以上の生徒の学力を向上させることができたか。	進路 学習	4	○各種テスト後には、分析結果をもとに個別に面談等や学習支援や生活支援を行っている。例えば、1学年と2学年では学力推移調査において、1回目から2回目にかけて、S層、A層が厚くなっている。また、思考力を見る総合学力調査において、3学年ではLv4とLv3層が厚くなっている。■特に学び方や苦手意識を持つ教科とうについては、今後も個人面談等で丁寧に助言をしていく。
	③育成すべき3つの資質・能力の伸長を図るとともに、生徒が、夢ややりたい自分を見つけられるようにするための探究的な学習を実践する。	③Academic communicationやBuilding my Careerにおいて、複数のチームが、探究の成果と課題を学校外場で、外部に向けて発表することができたか。	SSH	5	○探究的な学習を積み重ね、学習発表会等の機会を通じ、自らの学びを発表することができた。また、地域や外部の方との繋がりから、生徒の学びを深めることができた。■更に、外部のコンクール等への参加も含め外部への発信については研究を続けたい。
生徒の相談支援態勢の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止	①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。	①生徒の相談に十分に対応することで、不登校生徒数を減少させることができたか。	生徒指導 特別支援 相談	3	○不登校生徒は減少に至っていない。夏休み明け以降、心配な生徒が出てきているため、職員間での連携を取りながら対応に当たってきている。引き続き継続的な支援を行う。■生徒の学習面だけでなくやさを見いだす支援や、今と将来の夢とを結びつけ、希望を見いだせる声がけを一層充実させる。
	②学校生活における全般的なモラルの向上を図る。	②問題行動件数を減少させることができたか。	生徒指導 特別支援 相談 交通	4	○大きな問題行動は見られなかった。◆インターネット上でのトラブルや、端末の正しい使い方やICTの活用が進む中で、気になる生徒の行動が見られる。様々な機会を捉え総合的に取り組む必要がある。
	③いじめを絶対に許さない校風を維持する。	③いじめ防止のために、機会を捉えた指導をすることで、いじめ件数をゼロとすることができたか。	生徒指導 特別支援 相談	4	○本年度、新たに学校が認知したいじめの件数は1件。発覚後、早急に対応をした。その後も関係生徒には継続的に支援をしている。■生徒の様子を丁寧に見守り変化を見逃さないようにしていくと共に、職員間での情報共有を大切にしていく。
		④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。	生徒指導 特別支援 相談	4	○いじめアンケートは月毎に全校生徒に実施し、早期発見に努めた。また、そこで上がってきた情報を基に丁寧な聞き取りや支援体制をとることで、早期解決ができるよう努めてきた。■SNSを起因とする人間関係のトラブルについては、メディアリテラシーに係る教育を丁寧に行っていくと共に、全人的な心を耕す取組を継続的にしていく必要がある。
地域に関かれた学校づくりと社会に関かれた教育課程の実現	①教育活動を直接見る機会を設け、学校への理解を深める機会とする。	①公開授業、学校説明会、保護者懇談会に多くの方に参加してもらえたか。また、これらの事業を通じ学校への意見要望を吸い上げることができたか。	教務	4	○各種公開授業や説明会、文化祭の公開、学習発表会等を通じ、本校の取組を知ってもらう機会をとれるよう取り組んできた。加えて、プレスリリースについてもこまめに行うよう心掛け、本校の活動を広く広報できるよう努めた。◆今後も本校の取組の良さを更に知ってもらえるよう様々な機会を通じて広報に努めていく。
	②広報物を活用し、清陵高校・附属中学校の情報を発信していく。	②ホームページの更新頻度を上げること、各種広報物の発行、公開授業、学校説明会を年2回行うことで、小学生やその保護者に附属中の取組を伝え、志願者数を増やすことができたか。	教務	4	○ホームページの更新を頻繁に行い、情報発信に努めた。学校説明会は計画通り実施することができた。◆全体的な児童数の減少している現状ではあるが、志願者数は昨年度並みに確保することができた。■本校の取組のよさを更に知ってもらえるよう広報に努めていく。